令和元（２０１９）年度　御船町立高木小学校　学校便り

高き志【こころざし】

目指す学校像
地域とともにある
勢いのある学校

No. 32（R元. 12. 24発行）文責 校長 福田雅也

読　書　の　す　す　め

肝心なことは、いつでも自分が本当に感じたことや、真実心を動かされたことから出発して、その意味を考えていくことだと思う。君が何かしみじみと感じたり、心の底から思ったりしたことを、少しもごまかしてはいけない。そうして、どういう場合に、どういうことについて、どんな感じを受けたか、それをよく考えてみることだ。

そうすると、ある時、あるところで、君がある感動を受けたという、繰り返すことのないただ一度の経験の中に、その時だけにとどまらない意味のあることがわかってくる。それが、本当の君の思想というものだ。

この文章は、2年ほど前にベストセラーになった、吉野源三郎著の「君たちはどう生きるか」という本からの抜粋です。この作品は昭和12年発行ですから、戦前の著書なのですが、その内容は現代でも十分に通用する普遍的で深いものになっています。また、内容は普遍的で深いものなのですが、主人公の中学生とその叔父さんとのやり取りが中心となっており、小学校高学年でも読み進めることができるような作品にもなっています。そのため、2017年に再発行されベストセラーになったのだと思います。

実はこの本。今日行われた終業式で、高学年、特に6年生に向けてぜひ読んでみてほしいと勧めた本なのです。

全国学校図書館協議会は毎日新聞社と共同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を行っています。今年度の調査結果では、一ヶ月の平均読書冊数が、小学生は11.3冊、中学生は4.7冊、高校生は1.4冊だそうです。中学生はここ数年、少し向上傾向ですが、高校生は低い数値で大きな変化がなく、小学生は例年より低かった昨年よりも増えているものの、11冊台で推移しています。小学生はどうにか10冊以上読んでいるようで、少し安心しますが、高校生の結果や、なかなか冊数が伸びない現実を考えると少しさびしい気がします。もちろん、本校の子どもたちにも読書を呼びかけています。しかし、子どもたちの読書量は十分とは言えない状況です。

いよいよ明日から冬休みです。子どもたちにとっては、特別な日々が続き、いろいろな人に会ったり伝統的な行事が体験できたりする期間です。そんな中ですが、お正月はゆっくりできる時間もあるのではないかと思います。冬休み期間中、子どもたちには一人3冊の本の貸し出しを行っております。上に紹介した本に限らず、冬休み中に子どもたちが、読書に親しんでくれたらいいなと思っています。同時に、お正月くらい保護者の皆様も日々の忙しさから少し離れ、子どもたちと一緒に読書をされてみてはいかがでしょうか。上の本は、子どもたちへのメッセージが書かれてはおりますが、子育てのヒントも含まれていると感じます。親子で同じ本を読んでみるというのはいかがでしょうか。

この冬休みが、読書に限らず、保護者の方々や子どもたちにとって素敵な毎日であることを願っております。

良いお年をお迎えください。